

-%0Y d (Ò0¿ _ © « , Ò
Analysis Apparatuses and Data Processing at West Plant of Chiba Works

#ã § *” (Koji Tamura) 3Æ.(• æ ´ (Kiyota Kondo)

0[” :
0Y d _ ,0¿ I € S0 5§ í0 5đ d ? } b0è q † z P1ß _ K S (Ò †0 5đ d b3Æ C _
0¿*(K S (Ò 8 b "á ì \%, Š †% \$x \ K Z > * [A • ? B ~ " C b + 7 · μ p † v ~ °

もすでに峠をこえた感がある。今後はマイクロコンピュータを容易にするため各種スイッチ類の位置の変更

コンピュータを応用したソフト面の開発が主として行われて分析設備は小型となり、ラインに設置されてラインのオペレーターが分析するようになるであろう。しかるに、小人数で効率よく作業に

分析スピードを上げるための発光周波数自動切換装置、電極使用限度の警報装置および運転しながらでも真空装置の保守や交換ができるような設備等が追加され、

できるよう、設備やその配置の検討に努力を払った。

2・1 分析室

分析室の位置としては、発生する試料数の多寡

(2) 蛍光X線分析装置 (FX)

主として焼結鉱、滓類、ダスト、銑鉄の分析用であるが、実験用小型電気炉の高合金鋼および鋼中の特殊成分 (Ce, Se, Sb) の分析も対象としている。当所独自の仕様としては、真空炉の炉口は

の分布、分析の緊急性、試料搬送設備の建設費およびその保守点検等を総合的に判断して、製鋼工

分析を行い軽元素の分析精度の向上を図る遅延積分開始タイマー、分析フレックシブル化のための高

ある。本装置の導入により、湿式分析の作業効率の大幅な向上はもとより、データ処理の迅速性、試薬類の削減を図ることができた。また工場配管のアルゴンの使用により、よりいっそうの分析コストの低減となった。なお精度よく分析できる鉄鋼中の成分はSi, Mn, P, Cu, Ni, Cr, Al, Mo, V, Nb, Ti, Zr, Ce, Bなどである。

(4) その他の分析装置

1974年に総合的に開発したものを、さらに耐久性、性能の向上および手動テストの簡易化を図ったものである。

(3) 酸素試料自動調製機

当所が開発したこの調製機はタレット旋盤を改良したもので、ポンプ試料から一度に数個の表面が美しい円柱状の0.5 gまたは1.0 gの酸素分析用試料を自動的に調製する。本機は高性能ミストコ

Time required (min)	1	2	3	4
Start				

と同時に炉号別、試料の種類別またはチャージ別
(炉号別)のワークシートを作成し、目的種別

また最も新しい分析値を白色で表示し、それ以
前の分析値はグレーで表示し、そのときの

